

学会ニュース

目次

・ 第37回大会について	1
・ 2014年度国際18世紀学会執行委員会報告	王寺賢太	2
・ デジタル資料の展開と古典研究の可能性に向けて	深貝保則	4
・ 事務局より	6

第37回大会について

来年度の第37回大会は2015年6月20日(土)、21日(日)の両日、東京大学駒場キャンパスで開かれる予定です。開催校責任者は大石和欣幹事です。

本大会では共通論題及びミニセッションが開催される予定です。共通論題は「18世紀の舞台音楽」で、コーディネーターは武田将明幹事です。ミニセッションは「デジタル資料の展開と古典研究の可能性に向けて」で、コーディネーターは深貝保則会員です。

自由論題公募要領

第37回大会で発表を希望される会員は、1000字以内の発表要旨をつけて、**2015年3月6日(金)**までに学会事務局宛、郵便かメールでお申し込みください。郵送の場合は要旨のプリントアウト原稿および電子ファイル(「ワード」形式で作成されたもの)の両方をお送りください。メールの場合は、要旨を添付ファイル(「ワード」形式)またはメール本文にコピーしてお送りください。報告の採用の可否については幹事会で審査し、事務局から後日お知らせいたします。

発表は1件につき50分、うち報告が40分、質疑応答が10分の予定ですが、申込者が多数の場合は、個々の発表の時間を短縮したり、あるいはこれまでの発表の有無、共通論題を含む諸分野のバランスなどを勘案して、幹事会で調整させていただくこともありますので、この点はあらかじめご了承くださいませよう、お願い申し上げます。また会場で配布されるコピー資料は、原則としてご自分でご用意いただくことになっています。

詳細はプログラムが決定され次第、事務局から個々に連絡申し上げます。

2012年度国際18世紀学会幹事会報告

王寺賢太 (国際幹事・京都大学)

2014年の国際18世紀学会幹事会は、8月26日、ブルガリアのソフィア大学で開催された。このソフィアでの幹事会については、すでに学会HPに議事録草稿が公開されているので、詳細については以下のURLを参照していただきたい。以下では、幹事会の議論の要点と、日本18世紀学会会員にかかわる項目に焦点を当てて、簡潔に報告する。

https://oraprdnt.uqtr.quebec.ca/pls/public/docs/GSC304/F1002759830_2014_draft_minutes_Sofia_EC_26_08_2014.pdf

1. 財務状況：バイロン・ウェルズ会計担当からの報告では、2013-2014年の国際学会の収支は、£11,131(€3,714)の収入、£8,226(€0,135)の支出(見込み)。2014-2015年の年度末には、およそ£64,183(€5,006)の学会資産が見込まれる。国際学会の財政状況はいたって健全である。この財務報告を受けて、ロッテルダムの国際大会に、若手研究者や通貨の弱い諸国の研究者の参加費援助のため、国際学会から£20,000の支出が提案され、了承された。この結果、2014年度一年間の収支は赤字となるが、2019年の国際大会までに赤字の補填が十分に可能である。またマルク＝アンドレ・ベルニエ学会長からは、各国学会に対して、国際大会参加費援助のための国際学会への資金援助が求められた。なお、学会の事務的な運営については、引き続きヴォルテール財団(リン・ロバーツ)が無償で引き受けていることを注記する。

2. 新サイト開設：ベルニエ会長のイニシアティブで、国際学会ウェブサイトはラヴァル大学(ケベック)からケベック大学トロワ・リヴィエール校のウェブサイトに移転され、リニューアルされた。ウェブサイト管理担当のネルソン・ギルバートおよびパスカル・バステアン両氏の貢献には、幹事会から謝意が示された。国際学会の新サイトのURLは以下の通り。

https://oraprdnt.uqtr.quebec.ca/pls/public/gscw030?owa_no_site=304

この新たなウェブサイトには「18世紀研究誌」のセクションが設けられ、将来的に18世紀研究のためのサーチエンジンの機能を充実させることが予定されている。また、フィンランド18世紀学会のイニシアティブで進められてきたウェブ上の「18世紀研究ジャーナルIRECS」も、この新ウェブサイト上で公開が目指されている(予定されているコンテンツの詳細については上記、幹事会議事録草稿を参照のこと)。

また、このウェブサイト上の国際学会名簿(ISECS-direct)にメールアドレスが登録されているメンバーは、4年に1度の幹事会選挙にあたって、ウェブサイトを通じて投票することができる(以下「2015年の次期執行委員会選挙」の項を参照のこと)。この機会に、個人会員には国際学会の名簿の個人情報のアップデートが求められた。各国学会には、この国際学会のHPを活用して積極的に各地の学術的催しのアナウンスをすることも求められている。

3. 新学会の結成・活動：国際18世紀学会の現執行委員会は、新たな各国学会(National Society)の結成、あるいは休眠状態にあった各国学会の再組織化・活性化を支援してきた。現在、「オーストラリアおよび太平洋」学会の結成準備が進んでおり、次回ロッテルダムにおける幹事会で国際学会の構成学会としての承認を目指している。他方、マリア・グラサ・デ・ソウサからはブラジル学会の再結成が報告され、今回の幹事会で国際学会の新たな構成学会となることが承認された。同じくラテン・アメリカでは、先年アルゼンチン学会が再結成されており、マリア＝スサー

ナ・セガンからは、アルゼンチン学会が主催し、国際学会が協賛した2014年4月のブエノス・アイレスにおける国際シンポジウムの報告があった。幹事会が開催されたブルガリアをはじめ、東欧各地でも18世紀研究者ネットワークの拡大が図られている。これについては、かならずしも国別の学会の組織を目指すのではなく、先年のベルギーのワロン学会のケースに見られたように、地域別の学会組織を積極的に支援し、国際学会の「構成学会 a constituent society」としてではなく、（議決権を持たない）「連携学会 an associate society」とする方針も再確認された。

4. 2015年ロッテルダム国際大会の準備状況：オランダ・ベルギー学会会長ヴィーブ・ファン・ブングからの報告では、ロッテルダムの国際大会(2015年7月26日から31日まで)は「市場を開く Opening the Market」を総タイトルとして、レックス・ラートを現地組織委員会委員長とし、インガー・レーマンスを学術顧問として準備が進められている。パネルの募集は2014年9月1日〆切(すでに終了)、個別報告の募集は2015年1月12日〆切(すでに終了)。詳細については、以下のウェブサイト参照のこと。

<http://isecs2015.wordpress.com/>

・このロッテルダム大会に先だって、2015年7月20日から24日まで、アムステルダムで若手セミナーが開催される。今回のホストはインガー・レーマンスとアリシア・C・モントーヤ。テーマは「感情のエコノミー：長い18世紀における感情の政治的・社会的エコノミー Emotional Economies: The political and social economy of emotions in the long 18th Century」となっている。この若手セミナーへの参加希望の〆切は2015年1月15日。詳細については以下のウェブサイト参照のこと。

<http://isecs2015.wordpress.com/registration/early-career-scholar-seminar/>

・ロッテルダムから4年後の国際大会は、2019年7月14日から19日までエディンバラで開催されることが決定した。

5. 2015年の次期執行委員会選挙：次期執行委員会選挙の選挙管理委員としては、ハンス＝コルゲン・リューズブリック、ピーター・ライル、ロレンツォ・ピアンキの三名が指名された。

次回の執行委員会選挙では、上記国際学会ウェブサイトを通じての電子投票か、郵便による投票か、いずれかの手段を選択することができる。

・電子投票には上記のISECS-directへのメールアドレスの登録が必要である。

以前より国際学会にメールアドレスを登録している一部の会員には、個人情報の確認・変更に必要なIDとパスワードが国際学会よりメールにて配布されている。

また、2015年1月23日(金)までに日本18世紀学会宛(jsecs.nagoya.uni@gmail.com)にメールアドレスを送付した会員もISECS-directに登録され、国際学会からIDとパスワードを受け取ることができる。学会員は各自、以下のウェブ上の名簿で登録を確認し、必要な場合には更新を行なうことが求められている。

ISECS-direct : https://oraprdnt.uqtr.quebec.ca/pls/public/gscw030?owa_no_site=1947

・郵送投票については「国際18世紀学会執行委員会選挙」の項を参照のこと。

投票は、4月13日から6月8日まで、約8週間の予定。開票は6月にオックスフォードで行なわれる。

執行委員選挙に関する更新情報の報告や問い合わせは、日本事務局まで。

次回の執行委員会候補者名簿は以下の通り。次期会長には、フランスのリース・アンドリエス

が予定されている。日本からは会計補佐に小田部胤久、選出メンバーに王寺賢太が候補として加えられている。

https://oraprdnt.uqtr.quebec.ca/pls/public/gscw031?owa_no_site=304&owa_no_fiche=505&owa_apercu=N&owa_imprimable=N&owa_bottin=

追記：ラテン・アメリカや東欧へ、積極的に拡大を図る国際18世紀学会のグローバル戦略によって、今回はブルガリアのソフィアまで足を伸ばしてきました。たかだか数時間の飛行機の旅程の西ヨーロッパからの参加者たちも、直通便がないのをこぼしていましたが、日本から参加するとなると時間的にも金銭的にも色々コストがかかり疲弊しました。ただ、東欧の社会主義権崩壊後25年のソフィアを訪れることができたのはなかなか有意義な経験でした。ソフィアの行政の中心部では、国民議会を正面に、左手に財務省、右手に大統領官邸と教育・文化省がそびえるスターリン様式の広場の一角、ちょうど広場に面した教育・文化省の一階にカジノが入っており、かつてのレーニン像にとってかわったいかにもキッチュな金ピカの聖ソフィア像が、そのカジノを見下ろすという、ある種凄惨な光景も目にしました。ちなみにブルガリアでは、EUの財政健全化基準を満たすため、昨年文教予算が32%カットされたとのこと（しかし、イタリアの同僚によると、イタリアでは42%のカットだったとか—明日は我が身かもしれません）。

ソフィアの幹事会では、トルコでは政治情勢もあいまって、現在18世紀学会を組織することはむずかしいと思うというような発言もありましたが、ちょうどそのソフィアに行く途中で立ち寄ったイスタンブールでは、街中の書店で、デイドロ『サロン評』（抄訳）、プーガンヴィルの世界周遊記、スターン『トリストラム・シャンディ』など、われわれにも馴染み深い18世紀西欧の作品が（それこそデカルト、カント・ヘーゲルからフランクフルト学派、あるいはアルチュセール、フーコー、デリダといったフランスの現代哲学者までの論文集とともに）普通に本屋の店頭に並んでいるのを見て、アタテュルク以来のトルコの近代化の歴史の根強さを肌身に感じることもなりました。国際学会の幹事会に参加すると、旧知の18世紀研究者たちと意見交換が行なえる楽しさはあるものの、同時に、根強く西洋中心主義的なこの学会のメンタリティに触れて、日本の西欧18世紀研究者としてはいろいろと考えさせられることも多い。今回は特に、そのような印象の強かった幹事会への参加でした。

デジタル資料の展開と古典研究の可能性に向けて

深貝保則（横浜国立大学）

近年、情報化の進展は人文的な学の領域においても相当に浸透している。研究者たちはいまやテーブルに恭しく広げられた書籍よりもむしろ情報端末に向かうようになり、原稿も手書きではなく電子的な手段によって弾き出すようになった。文献を探すに当たって、さまざまな著作に附された文献目録や脚注から芋づる式に探したかつてとは異なり、web 検索によって画像化された書籍にさえ出会うことができるようになった。こうして、多くの研究者がひとまず、情報化の進展に問題なくついていっているようである。では、存分に活用することができているのであろうか。活用するための基礎的な条件に隔たりが生じ、この情報格差がやがてじわじわと効いてこないだろうか。また、このようなメディアの変化にであうなかで、逆に歪みは生じることになりはしないのであろうか。

人文・社会科学における思想研究、文芸研究、歴史研究などでは、従来は熟読吟味型、もしくは手作業でのメモやカード作成によるデータ蓄積などが主な研究手法であった。むろん今日でも、深く問題を掘り下げるために熟読吟味型こそ重要であることは変わることがない。だが、信頼度の高い著作集や資料集が未整備の研究主題の場合、従来は資料へのアクセスにはさまざまな困難があった。とくに欧米の古書籍やマニユスクリプトの場合には地理的条件も加わってアクセスが困難であるうえに、ネイティブの当該主題の研究者との言語的な条件の違いもあり、研究のギャップを埋めるためには多大な努力を、そしてしばしば資金のやりくりを必要とした。

近年の、google, europeana, internet-archive, gallicaなどをベースとしたデジタル書籍の展開や、さまざまな研究機関や博物館などが所蔵する貴重資料コレクションの web 上でのデータ公開などは、従来に比して研究資料へのアクセスを大幅に改善した。とりわけ国立情報学研究所および国立、公立、私立それぞれの図書館の連絡組織の協力をベースとした JUSTICE の仕組みのお蔭で、諸研究機関はコンソーシアム方式を用いて高額のデータ・ベースをずいぶん好条件で導入することが可能となった。2014年までにコンソーシアムの対象となったのは HCPP (House of Commons Parliamentary Papers), MOMW (Making of the Modern World), MOMW-II および ECCO (Eighteenth Century Collection Online) の4種類であり、諸研究機関による導入の促進に効果を生みつつある。これらのデータ・ベースは情報収蔵のデータ量の多さにもまして電子的解読の正確度が格段に高く、今後の研究進展のための新しい基盤となる可能性がある。活用の仕方を工夫し、テーマ設定やアプローチの手法をうまく設定することができれば、言語的なバリアーを中味の旨みで埋め合わせて、諸外国の研究者との共同研究の新たな可能性を拓いていくこともできるかもしれない。なにしろなにごとにも国際化がキー・ワードの昨今、この研究領域においても試みないで済ませる手はない。このようなことがらを考えて、今年6月の18世紀学会の大会の折に、「思想/文芸/歴史研究とデジタル資料」をテーマとしてミニ・シンポジウムを設定させていただくこととした。

電子的書籍の増大によって、従来は利用が覚束なかったような資料、そしてまた存在を知るはずもなかった資料に出会うことができるようになった。テーマによっては、これで初めて熟読吟味の機会を得ることができることもあろう。だが、電子的な資料群の大量発生之恩恵はこれだけではない。扱うべき基本的テキストをとりまくコンテクストを、広い観点から見渡すための条件が大幅に改善された。むろんこのような活用を進めるに当たっては、相応の手法があるし力量も要する。うまくスキームを組み立てないと、逆に情報の大海のなかに投げ入れられて茫然と漂うことにもなる。

今日のようなネットワークを介したテキスト群の提供に先立つ1980年代後半に、いくつかの分野ではテキストを自力で入力してコンピューター言語で解析し、文体を検討するような試みがなされた。いまではさまざまに提供されるデジタル情報によって、単なる画像ではなく文字列テキストの膨大なストックを活用することが可能である。匿名文書や無署名文書が飛び交う18世紀の知を主題とする研究にとっては、たとえば文体研究や著者割出し、そして場合によっては文中に秘かに忍び込まされた暗号めいたものを探ることも可能になるかもしれない。このようなことを考えると、情報学のテキスト分析の知見を活かすことが必要であろう。ただし、目下のところの人文社会科学系でのテキスト・マイニングの応用の試みは、語数頻度をリスト・アップして表やグラフを作ってみるという作業が主なものであるように見受けられる。しばらく前にかなり影響力をもったケンブリッジのグループのコンテクスト分析を軸とした政治思想研究のスタイルなどを、新しいメディア環境のなかでどのように進めるか、工夫の余地があろう。

新しいメディアが登場するとしばしば、そのメディアを活用すること自体が自己目的化しかねない。だが、研究のツールは替わるにしてもコアに座るのはやはり、何を主題として扱い、問題の基礎的なターゲットは何であるのかという領分であることに変わりはない。変わりがあるとすればそのひとつは、ある通説に沿って地道で時間のかかる資料密着によって類似の設定で取り組めばひとまずの成果にはなった、という旧来とは異なった状況に入っていくのかもしれない、ということがらである。

データを扱ういくつかのテクニックを身につければ、言葉の頻度などに着目した類似の論文を作り出すことはそれほどには厄介ではなくなってくる。逆に、何をどのように問題として取り上げるのかという嗅覚のほうが一段と大切になるかもしれない。なにしろ、今日のような細分化されたディシプリンにはなっておらず、逆に、博物学のような今から見れば茫洋たる知が花形であったような18世紀である。旧き素材の新たなメディアによる提供を機に、18世紀の知の文脈を蘇らせるようなさまざまな挑戦がなされてよいであろう。このところますます賑やかな研究評価のあり方とともにごく最近にわかにか浮上してきた研究倫理をも勘案した場合、古典的なテキストの大量情報のなかでの研究のありようは、これからどういう局面を迎えるのであろうか。

研究基盤の基礎条件の面でいえば、JUSTICE のコンソーシアム方式は、近年の高額資料の導入に当たっての障害を大幅に取り除いた。この方式は、導入した所属機関の正式アカウントを持つメンバーに対して利用のチャンスを与えるものであって、ライセンスに関わる事柄である以上、これが遵守されるべきである。しかし、コンソーシアム方式では研究機関の契約如何に依存するために潜在的な利用者にチャンスを与えることができないという状況にある。学術情報基盤の整備という観点からいえば、この点についての公式性を持った新たな工夫をやがては編み出す必要がある。

さいごにいまひとつ、書籍ではなく手書き文書など、この世にただ一つしか存在しないさまざまな資料群の開拓においても、デジタルの領域は無関係ではない。近年では画像の解析により文字パターンを認識し、解読作業を促進する試みが展開している。その典型的なものとしてBentham Project (University College London) の Transcribe Bentham を挙げておこう。これは独特の読みにくい字体のベンサムのマニュスクリプトをネットワーク上に掲載し、自発的に登録した解読ボランティアの作業をスタッフが定期的に点検・更新していくというものである。2014年夏の国際功利主義学会 (ISUS) の折には担当するリサーチ・フェローたちが来日し、複数回のワークショップの機会を持った。日本の古文書研究などの領域にとっても、解読の手法ばかりでなく研究プロジェクトのマネジメントのあり方としても参考になる。



事務局より

日本18世紀学会役員選挙について

当学会では、2年ごとに役員選挙が行われており、2015年はその年に当たります。同封の投票用紙、封筒を使って投票してください。要領は別紙をご参照ください。投票締め切りは2015年3月6日(土)です。なお、役員選挙用の封筒にほかの書類(業績リスト等)を入れないでください。

日本18世紀学会会員名簿について

2015年は名簿作成の年度に当たります。同封のカードに間違いや変更がないかどうか、ご確認の上、2月28日(土)までに事務局に連絡をお願いします。なお間違いや変更がない場合も、その旨を事務局にご連絡ください。また、生年月日は役員選挙の被選挙権者名簿作成のために必要ですので、ご記入ください。(名簿では公表されません。)

事務局の連絡先は以下の通りです。

・ E-mail : jsecs.nagoya.uni@gmail.com

- ・郵便：〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院経済学研究科
日本18世紀学会事務局
- ・tel: 052-789-2380, fax: 052-789-4924.

業績アンケートについて

『年報』に会員の業績を掲載するために、例年この時期にアンケートを行っています。同封の用紙の要領に従って、回答をお願いします。締め切りは3月6日です。データの整理のため、早めにお返事いただければ幸いです。（3月刊行分は予定でもかまいません。また、次年度号に掲載していただくこともできます。）

会費納入のお願い

学会ニュースの発送とあわせて、会費未納の方には、その年数に応じた金額を印字した払い込み用紙を同封させていただいています。学会の活動は皆様の会費によって支えられています。事務局におきましても円滑な学会運営のため、身を引き締め変わらず努力する所存ですが、会員の皆様にはどうか苦しい学会の財政事情をご理解いただき、会費納入にご協力をお願い致します。

すでにご存じと思いますが、一般の銀行から郵便振替口座への入金もできるようになりました。

なお、口座番号は以下の通りです。事務局移転に伴い、郵便振替口座も変更となりました。今後は以下の振込口座へ会費の納入をお願いいたします。

< 郵便口座振替で振り込む場合 >

口座記号番号：00800-7-183350 口座名称：日本18世紀学会事務局

< 銀行等から振り込みする場合 >

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：〇八九店（ゼロハチキュウテン）

預金種目：当座預金 口座番号：0183350

『年報』への論文投稿について

すでにご存じと思いますが、数年前から、大会での発表をもとにしたもの以外の論文も投稿できるようになりました。詳しくは『年報』末尾の投稿規程をご覧ください。

国際18世紀学会の名簿について

国際18世紀学会事務局移転に伴い、ホームページの再構築がなされております（日本18世紀学会ホームページのリンクより閲覧できます）。2015年1月に入り、国際18世紀学会に登録されている個人情報閲覧できるようになりました。

なお2015年は国際18世紀学会執行委員の選出年であるため、登録されている学会員名のチェックが各国学会等に要請されております。これに伴い、事務局で12月末日を基準日として、国際18世紀学会ホームページに掲載されるべき会員リストを1月末までに提出する予定です。国際執行委員選挙に合わせて個人情報が更新されますが、情報がいつ更新されるかが確実ではありません。国際執行委員選挙の投票が開始される4月13日以降においては確実に個人情報をチェックできる予定ですので、その際には是非ご自身の情報をチェックして下さい。

ただし、日本18世紀学会事務局から国際18世紀学会のサイト管理責任者に通知するのはお名前だけです（国際執行委員選挙の選挙人リスト提出の際に、メールアドレスを合わせて通知する希望を出した会員については、メールアドレスも通知しております。また、これまで登録されている個人情報については、日本事務局より訂正の依頼は行っておりません）。そのような事情で、お名前はすでに記載されているはずで、なるべくご自分で上記アドレスにアクセスして、公表したいデータを登録して

ください。詳しくは国際18世紀学会のサイトをご覧ください。(上記サイトの画面上部のISECS-directまたはRépertoireボタンから名簿にアクセスできます。)

さらに、公開されている個人情報に訂正の必要がある場合、あるいは個人情報の公開を望まない場合は、国際学会の管理責任者(Pascal Bastien: admin@isecs.org)に直接連絡してください。(英語でもフランス語でも通じます。名簿ページ上端のContactボタンからも同じアドレスにつながります。どうしてもわからない場合は事務局にお知らせください。)

シンポジウム、講演会や出版の告知などのためにも、国際18世紀学会のホームページを活用してください。国際学会に関する情報のほか、シンポジウムなど各種の情報が掲載されています。

投書欄について

この「学会ニュース」に投書をしていただくこともできます。たとえば以下のような内容の投書が可能です。

- ・学会や事務局への意見、提案、希望など。
- ・掲示板：研究会の呼びかけ、行事の広告、情報提供の依頼(たとえば「『○○』という本を探しています」など)。会員同士の連絡にご利用ください。

いずれも事務局までお申込み下さい。

なお、以前の「『百科全書』研究会」のように、チラシや案内文書を「学会ニュース」に同封することも可能です。年3回の発行なので緊急の案内には適しませんが、全会員にお届けできます。(経費等の都合上、枚数の少ないものに限りです。)

共通論題のテーマ、および書評対象図書

会員からの提案を随時受け付けています。事務局または担当幹事まで。(ただし、共通論題のテーマ決定に際しては開催校の希望が優先されるので、必ずしもすぐにご提案が実現するとは限りませんが、事務局から開催校や幹事会に伝達します。)

当学会は学際的な学会であるため、会員の研究が広範囲に及び、担当幹事だけでは各分野の重要文献の情報を集めるのが困難です。書評で取り上げるに値すると思われる図書がある場合、事務局までお知らせください。(特にご自分の専門分野が当学会で十分に扱われていないと思われる方は、積極的にご推薦ください。)

学会ニュースのエッセー

今のところ、事務局から執筆をお願いしていますが、会員の皆さんからの希望も受け付けています。執筆を希望される方は事務局までお知らせください。(編集の都合上、12月号は10月半ばまでに、4月号は2月初めまでに、9月号は7月半ば頃までにご希望をお寄せください。)

年会費

日本18世紀学会の年会費は5,000円です。年会費について証明をご希望の方は、『年報』末尾またはホームページの「会則及び役員選出に関する細則」附則の項を印刷してご利用ください。

寄付のお願い

前号以来、以下の方から寄付がありました。お礼申し上げます。

高際澄雄 2口(2千円)、三井吉俊 3口(3千円)

計 5口 5,000円

また寄付を希望される方は、別紙要領をご覧ください。

学会への献本

学会宛に以下の図書をいただきました。お礼申し上げます。

- ・日本ジョンソン協会（編）『十八世紀イギリス文学研究 第5号 共鳴する言葉（ワード）と世界（世界）』開拓社、2014年、307p.

会員異動

[退会者]

末永 航

新入会員の方へ

毎年6月の幹事会で入会を承認された方はその年度からの会員となります。6月の幹事会以降に入会を申し込まれた方は12月の幹事会で承認され会費については次年度からの会員扱いになりますので、会費の請求はありませんが、他の会員同様に諸種の配布物をお届けいたします。

新会員の勧誘のお願い

ぜひ18世紀研究に関心のある方を本会にご勧誘ください。入会申込用紙は日本18世紀学会ホームページからダウンロードできますので、よろしく願いいたします。

メーリングリスト

日本18世紀学会では学会や研究会のお知らせ、ヴォルテール財団からの連絡などをメールによって会員の方々にお知らせしております。ご希望の方は事務局までご連絡をお願いいたします。なお、これまでメーリングリストより配信されていたにも関わらず最近メールが届かないという方、またご希望にもかかわらず、メールをお受け取りになっていない方はお手数ですが、事務局までご連絡をお願いいたします。また、メールアドレスを変更された場合もお知らせください。

幹事会メンバー(50音順)：王寺賢太(国際幹事)、大石和欣(常任幹事)、大野誠(常任幹事)、隠岐さや香、小田部胤久(国際学会執行委員)、川島慶子、小関武史(常任幹事、年報担当)、斉藤渉、坂本貴志(常任幹事、年報担当)、武田将明、玉田敦子(常任幹事)、寺田元一(東アジア交流担当)、長尾伸一(代表幹事)、馬場朗、逸見龍生(常任幹事、年報担当)

会計監査：安室可奈子、真部清孝

日本18世紀学会ニュース 第77号 2015年1月発行
発行者 日本18世紀学会 代表者 長尾伸一
事務局 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院経済学研究科 日本18世紀学会事務局
e-mail: jsecs.nagoya.uni@gmail.com
tel: 052-789-2380
fax: 052-789-4924
<http://www.gakkai.ac/jsecs/>